



第54回日本リハビリテーション医学会



第32回リハ工学カンファレンス

おしらせ

看護師とメディカルのためのFIM講習会
NPO法人東京多摩リハビリ・ネット

平成29年7月2日 共催：杏林大学
第21回基礎編 159名
第10回応用編 74名
平成29年10月15日 共催：北里大学
第22回基礎編 300名
平成29年12月10日 共催：杏林大学
第23回基礎編 186名
第11回応用編 76名
今回は平成30年2月11日(日)開催(基礎編)
共催 埼玉医科大学



現代リハビリテーション医学 第4版
監) 千野直一 (編) 榎原彰夫、才藤栄一、出江紳一、道免和久
(金原出版 平成29年6月初版)



学会

第52回日本理学療法学会 (5月12日-14日 千葉) 5題 人工膝関節置換術後の膝関節伸屈制限に関する後方視的検討—術前可動域、矯正角度、インプラントの型式に着目して—(谷口)、在宅での装具の使用状況とその違いによる満足度の比較(柳川)、バドミントン大会のメディカルサポート報告 東京都八王子市での3年間の活動から(元井)、慢性期リハビリ利用者はLSAが高いと幸福なのか? 通所リハビリ利用者による検討(荒尾)、一般内科病棟に入院した廃用症候群患者の自宅退院に関連する要因の検討(星本)

第54回日本リハビリテーション医学会 (2017年6月8日-10日 岡山) 6名発表(当法人関連) 小児に対するウ・アップ装具の使用経験(橋出)、肺炎患者における理学療法、作業療法の早期介入への取り組み(井出)、回復期リハのFIMアウトカムに影響を及ぼすストラクチャー・プロセス—都病協版 CI 多施設共同調査より—(石濱)、超高齢者へのリハビリテーション介入の効果～在宅復帰が可能となった一症例～(豊田)、パネルディスカッション:「地域包括ケアシステム」(座長/千野直一・半田一登)「生活期リハサービスの効果と課題」(荒尾)、「生活期リハサービスにおける連携システムとリハ医の役割」(大高)、シンポジウム: Globalization of Rehabilitation Medicine: Importance of the role of ISPRM for progress in rehabilitation medicine across the globe ポリオ流行と近代リハビリ医学—Sister E Kenny と F Roosevelt 大統領の物語—(Chino)

第18回日本語聴覚学会 (6月23-24日 島根) 4題 八王子地域における嚥下調整食一覽表作成の取組み(白波瀬)、地域言語聴覚士団体による市民への普及啓発活動の報告—第8回八王子言語聴覚士ネットワーク市民公開講座「脳卒中!—話せない、食べられないからの出発—」開催を通して—(鈴木)、集団リハビリテーションへの参加を通じ、意欲・発動性の向上、記憶障害に対する病識向上を認め、生活上の行動に変化が見られた一例(君島)、福祉型障害児入所施設における地域言語聴覚士職能団体による療育支援の意義について(徳田)

第3回地域包括ケア病棟研究大会 (7月9日 東京) 17題 山田美、串田、真中、高崎、大江、樗木、神藤、湯浅、岡部、石濱、和智、金井、金江、木野田法、小川菜、荒尾、齊藤 シンポジウム:「住み慣れた街でみんなていつまでも暮らすための地域包括ケア病棟の役割」(講演:安藤)

第23回日本心臓リハビリテーション学会 (7月15-16日 岐阜) 5題 慢性閉塞性肺疾患と慢性血栓塞栓性肺高血圧症の合併例に低酸素血症を回避するための筋力強化訓練の工夫(安藤一)、外来栄養指導施行による再入院回避の効果(今吉)、200日を超える長期入院心不全患者に対して多職種協働での精神的ケアが奏功した一例(桑原美)、高齢心不全患者の摂食嚥下面からの在宅復帰への検討(近藤)、当院で自宅退院に至った後期高齢循環器疾患患者における下肢筋力の実態(山村)

第36回全国デイ・ケア研究大会2017 in 熊本 (8月4-5日 熊本) 3題 通所リハビリテーション利用者における生活空間について(松井)、当通所リハ施設におけるバランステストと歩行速度の関係(野長瀬)、脳血管疾患を有する通所リハビリテーション利用者の下肢筋力の変化について(伊計)

第32回リハビリテーション工学カンファレンス (8月22-24日 神戸) モジュラー型座クッションの開発(石濱)

第59回全日本病院学会 (9月9-10日 石川) 18題 野本、桑野、瀧澤、出雲、細貝、岡部貴(永生病院)、三宅、藤木、江村(クニック)、関、宮野、常井、木下、秋庭、近藤、打越 田代、中野(南多摩病院) シンポジウム:「枠を越えて生きるをデザインする病院」(座長:安藤)、パネルディスカッション:「2025年の医療をデザインする」(講演:安藤)

第19回日本認知症グループホーム大会 (9月9-10日 京都) 最期まで自分らしく ～ターミナルケアの実現～ (大田)

第19回日本褥瘡学会 (9月14-15日 岩手) ランチョンセミナー: スキン・テアを予防する栄養アプローチ ～コラーゲンペプチドの効果～(野本)、認知症患者における局所陰圧閉鎖療法との取組み～認知症看護認定看護師と皮膚・排泄ケア認定看護師の連携～(串田)

第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 (9月15-16日 幕張) パネルディスカッション「療養型医療施設での摂食嚥下リハ」(当院医療療養病棟における言語聴覚士の役割—摂食嚥下リハビリテーションに着目して—(白波瀬))

第51回日本作業療法学会 (9月22-24日 東京) 5題 折り紙から見るWell-Beingの挑戦、能力、没頭の3要素に関する検討—フロア体験を踏まえて—(浅井)、座位保持困難な重度高齢障害者への活動と参加を促す離床の効果(岩谷)、アルツハイマー型認知症で顕著な言語症状を呈した一症例に心理的負担の軽減を意識したアプローチ(加茂)、橈骨遠位端骨折に対する外来作業療法における介入効果の検証—Q-DASHを用いて—(清水)、知的障害者の中手骨折に対する興味のある作業を用いての介入(古里)

第33回日本診療放射線技師学術大会 / 第24回東アジア学術交流大会 (9月22-24日 函館) 人工膝関節立位正面像の描出能向上を目的とした補助具の開発と使用経験(平本)

第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会 (9月23-24日 長野) 労作時の呼吸指導が奏功し、呼吸困難感による運動耐容性が改善した一症例(五十嵐康)、地方自治体と協働した介護支援専門員に対するリハビリテーション啓蒙活動の報告(井出)

第44回日本肩関節学会 (10月6-8日 東京) 外傷性肩関節不安定症の位置覚の検討—健常者との比較—(津田)

第33回日本義肢装具学会 (10月8-9日 東京) 高通気・高除圧性素材を用いた座位保持装置開発(石濱)

第25回日本慢性期医療学会 (10月19-20日 仙台) 9題 安川、秋山、高橋、来島、春日、笹井詩、関、山村、荒尾

リハビリテーション・ケア合同研究大会2017 (10月19-21日 久留米) 7題 医療保険と介護保険間のリハビリテーションの連携を高める為の取り組み(元井)、肺炎を併発した大腿骨頸部骨折患者に対して高密度のリハビリ介入が奏功した一例(福生)、当施設におけるリハビリテーションマネジメント加算2の目標達成について(野長瀬)、脳卒中片麻痺利用者の歩行速度と生活空間の関係について(勝俣)、骨盤底筋群トレーニングにより過活動膀胱の改善が見られた一症例(瀬戸)、ポジショニング表の掲示方法の工夫と他職種との連携にて褥瘡の改善がみられた一症例(岩崎)、地域リハビリテーション支援センターと八王子市との協働で5年間実施した介護支援専門員研修の取り組み(井出)、地域でのリハ専門職の役割—2年間の講師派遣事業を経験して—(木野田)

第45回日本救急医学会総会 (10月24-26日 大阪) 4題 術前に診断困難であった肝膿瘍穿孔による汎発性腹膜炎の一例(上田)、救急医のサブスペシャリティとキャリアチェンジ(加藤)、病院救急車を公的に運用する二次救急医療機関は地域包括ケアのハブ病院(朽方)、病院救急車は地域包括ケアのセーフティネット(関)、大規模災害時には高齢者や透析患者を搬送する病院救急車が必要(藤江)、

第61回作業療法全国研修会 (12月10日 東京) 講師: 医療機関や高齢者におけるシーティング介入と作業療法士の視点が果たす意義 ～「生きているから動きたい!」に伝えたい～ (岩谷)

国際学会

Proceedings of the 11th International Convention on Rehabilitation Engineering & Assistive Technology (i-CREATE2017), Aug. 22-24, Kobe. Validity of the Electric Spastic Ankle Measure for Ankle Spasticity. Ishihama H, Muraoka Y, Chino N, Ushijima R. (In press. START Centre, ACM Digital Library).

10th Biennial Asia Pacific Conference on Speech, Language and Hearing (APCSLH2017), Sep. 17-19, 2017, Narita. The Effect of Behavioral Activation Intervention for People with Higher Brain Dysfunction. Emura S, Nishimura A.

論文・書籍

安藤高朗. 永生会の生き残り戦略: 急性期から地域包括ケア・慢性期までのマルチタイプ. 日本慢性期医療協会誌: JMC, 25(3), 3-9, 2017.

三宅英司・八並光信他. バドミントンの傷害に関する疫学的調査. 臨床スポーツ医学誌, 25(2), 223-231, 2017.

石濱裕規・安藤高朗. 療養型施設におけるリハビリテーション 現状と課題. 総合リハ, 45(11), 1089-1097, 2017.

嶋崎眞治・飯田達能他. 療養病床における維持期リハビリテーションの実践. 総合リハ, 45(11), 1117-1123, 2017.

公的助成研究

平成28年度厚生労働省老人保健健康増進事業「介護保険施設等における寝たきりゼロのためのリハビリテーションの在り方に関する調査研究」報告書(日本作業療法士協会受託) 分担研究(岩谷)